

ギラン・バレー症候群の針筋電図所見に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2026 年 10 月 14 日 ～ 2029 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 発症早期ギラン・バレー症候群における針筋電図所見の診断補助的意義に関する後方視的検討

〔研究目的〕 ギラン・バレー症候群は、急に手足の力が入りにくくなるなどの症状をきたす末梢神経の病気です。発症早期には、神経伝導検査や髄液検査で異常がはっきりしないことがあり、診断が難しい場合があります。本研究では、診療の一環として行われた針筋電図検査の結果を用いて、発症早期のギラン・バレー症候群において神経の障害を示す所見がどのように現れるかを明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕 発症早期のギラン・バレー症候群では、神経伝導検査など一般的な検査では異常が乏しいことがあります。本研究により、針筋電図が神経の障害を証明する補助的な手段として役立つ可能性が示されれば、早期診断や治療方針の判断に役立つことが期待されます。

〔対象・研究方法〕 本研究は、過去の診療記録をさかのぼって行う後方視的研究です。2009 年 4 月から 2025 年 12 月の間に帝京大学医学部附属病院脳神経内科でギラン・バレー症候群またはその類縁疾患と診断され、診療の一環として神経伝導検査および針筋電図検査が行われた患者さんの診療情報を対象とします。使用する情報は、診療録、神経伝導検査、針筋電図検査の記録などであり、新たな検査や治療を行うことはありません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 脳神経内科学講座

研究責任者:北國 圭一(脳神経内科 講師)

〔個人情報の取り扱い〕収集したデータは、個人毎に加工されたデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター(以下、「TARC」)事務局に提出します。TARC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部脳神経内科学講座・講師 北國圭一
研究分担者: 帝京大学医学部脳神経内科学講座・病院教授 畑中裕己
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科
(代表 03-3964-1211)